

チャイルドライン
支援センター

活動報告



チャイルドライン全国キャンペーン ～今こそ子どもたちにチャイルドラインを～

COVID-19の感染拡大が続いた昨年、10代の自殺者数や児童虐待件数が、過去最大になりました。子どもたちのストレスや息苦しさはピークに達しているのではと思われされます。私たちは、日頃から子どもの声を受け止めていますが、さらに11月の児童虐待防止推進月間に合わせ、全国の68団体が思いをひとつにして、子どもの声を一本でも多く受け止めようと、キャンペーンに取り組みます。「チャイルドラインがあつてよかった!」「チャイルドラインには安心して話ができる。」そう子どもたちに思ってもらえるよう広く知らせ、受信体制を強化する月間にしていきます。

チャイルドライン支援センター発行 冊子ご紹介

◆『フリーダイヤル10年 ～チャイルドラインに届いた声から 子どもの状況を考察する』

フリーダイヤル実施10年間(2009年～2018年)の累積データ500万件を整理し、名古屋大学大学院教育発達科学研究科・内田良准教授のご協力を得て分析し、まとめました。



◆『2021チャイルドライン年次報告』

2020年度の電話およびオンラインチャット相談のデータからみえる子どもたちの状況と社会課題、チャイルドライン活動などを広く社会に伝えます。

※競輪の補助を受けて作成しました。



thank you

ご支援・ご協力 ありがとうございます

●2021年2月～2021年6月のご寄付総額
3,729,328円

子ども専用フリーダイヤルをはじめとしたチャイルドライン支援センターの活動は、多くの方のご支援で成り立っています。フリーダイヤル・オンラインチャット運営費用はもちろん、届いた子どもの声をまとめ、社会に届けるために、年間6,000万円の活動費用が必要です。子どもたちの生きやすい社会を目指し活動するチャイルドラインへのご支援をこれからもよろしくお願いいたします。

ゆうちょ 振替口座 00120-5-425245
銀行 (019支店 当座0425245)
口座名 NPO法人チャイルドライン支援センター

※当団体は東京都の認定を受けています。ご寄付いただくと所得税や法人税の控除を受けることができます。
(内閣府HP <https://www.npo-homepage.go.jp>)

チャイルドライン 全国キャンペーン

◆2021年11月1日～30日◆

児童虐待防止推進月間

電話 期間中毎日、16時～21時開設
0120-99-7777

オンラインチャット 11月1日～14日、16時～21時開設
<https://childline.or.jp/>

通常開設日 電話……… 毎日16時～21時
オンラインチャット…… 毎週木・金、第3土曜
お休み＝ 年末年始

フリーダイヤル & オンラインチャット 実績 (8月16日時点)



●フリーダイヤル

2021年2月1日 ～6月30日	当期	前年同期比
発信数	198,206件	-49,219件
着信数	67,175件	+6,258件
着信率	34.2%	+5.8ポイント
平均通話	5分46秒	+7秒
総通話時間	6,424.7時間	+726.0時間

※NTTコミュニケーションズ トラフィック調査ツールより
※注記：昨年2月～6月は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、フリーダイヤル開設が減少していた。

●オンラインチャット相談

2021年2月1日 ～6月30日	実施日数 (47日間)	前年同期比
訪問人数	34,640件	+1,468件
チャット利用人数	7,373件	+1,127件
対応件数	2,891件	+652件
対応時間	1,831.6時間	+326.1時間

※チャットシステムAI.BiSのレポート解析結果およびチャイルドラインデータベースより

編集後記

◆今年も暑い夏でした。夏休み中も新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の勢いはとどまりませんが、子どもたちが今しかできない事を体験して多くの思い出を持つために、おとなたちには何が出来るのか、悩む毎日です。(田野)

特定非営利活動法人(認定NPO)

チャイルドライン
支援センター

ニュースレター

News Letter

vol. 143



巻頭言

子どもの心の声を聴く 「チャイルドライン」の今



チャイルドライン支援センター
共同代表 小林純子

日本でチャイルドラインの活動が始まり、その輪が広がって23年が経ちました。1990年の子どもの数は約3,249万人でしたが、2020年は約2,046万人と、約1,203万人減少しました。少子化の流れは止まらず、日本社会や家族の形態も大きく変化しています。

その中でも、昨年(2020年)より発生したCOVID-19の流行は、全国規模で子どもたちに影響を与える重大な出来事でした。同年3月からの学校の一斉臨時休業以来、しばらくの間は子どもたちからの不安を訴える声がチャイルドラインに相次ぎました。最近ではその数はとても少なくなっており、子どもたちはこの生活に順応したように見えますが、心の中は決してそうではありません。

チャイルドラインにアクセスする子どもの80%ほどは「話を聴いてほしい」と思っており、その多くが「不安」を訴えています。いつまで続くかわからない、対処方法も不明、おとなが右往左往している様子も不安など、COVID-19の流行の影響を受けている子どもたちの心が伝わってきます。このような心の動きを今後も注視していく必要があります。

2021年5月、文部科学省から児童生徒の自殺が過去最多という発表がありました。小学生14人、中学生146人、高校生は339人、計499人です。想像してみてください、中規模校の児童生徒が全員消えてしまうくらいの数です。この子たちがなぜ死を選ばなければならなかったのか、文部科学省ではその原因も分析しています。学校問題が最多で、内容は学業不振、進路、学友との不和などとなって

います。2番目に多いのが健康問題で、女子は鬱などの精神的な問題も多く挙げられています。親子不和、家族からのしつけや叱責など家庭の問題が3位でした。

チャイルドラインの現場では、話している問題のかけに、不登校を親に理解してもらえない苦悩や、虐待など親からの不適切な関わりのつらさといった、家族との関係を訴えている子どもが増えているように思えます。一番身近な存在であり、一番受けとめてほしい親に拒絶されるというのは、子どもにとってどんなに苦しいことでしょうか。

チャイルドラインは親の代わりにはなれませんが、たくさんのおとなたちが関わって、毎日同じ時間に「いつもここにいるよ、ここで待っているよ」という場所を作ってきました。安心できる安全な場所、そこに信頼できるおとながいることが、子どもたちの成長にとって不可欠です。

この世に生を受けたすべての子どもたちが、自分の未来を自分で決めることができ、命を全うできる社会にするのは、おとなたちの責任です。

チャイルドラインは、ひとりひとりの子どもに寄り添いつつ、他団体や他機関とのネットワークを広げ、子どもたちの心の声を社会へ伝える役割を果たしていきたいと思えます。



図1. 児童生徒の自殺者数の推移

	2020年
学校問題	151人
健康問題	73人
家庭問題	68人
男女問題	21人

図2. 児童生徒の自殺の原因・動機別

※出典資料から「大項目」をまとめて筆者が集計・作成(複数計上あり)

出典：コロナ禍における児童生徒の自殺等に関する現状について(令和3年5月7日 文部科学省)



発行日：2021年9月30日
発行：特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター(認定NPO)
〒162-0808 東京都新宿区天神町14 神楽坂藤井ビル5階 TEL: 03-5946-8500 FAX: 03-5946-8501
URL: <https://childline.or.jp/> E-mail: info@childline.or.jp



特集

「子どもの性の商品化」 に抗する、 「包括的な性教育」を

Part 2

チャイルドラインは 子どもものの代弁者 になりたいと思っています

チャイルドライン支援議員連盟勉強会(2020年11月25日)開催から

警視庁は例年、子どものSNS利用による事件の内訳と件数を公表し、18歳未満との淫行など青少年保護育成条例違反、裸の写真撮影などの児童ポルノ、児童買春、略取誘拐、強姦性交、殺人未遂まで挙げていますが、違反を防ぐ対応としては、SNSの適切な利用の呼びかけと、保護者にフィルタリングを奨励する注意喚起に留まっています。

現状は、児童ポルノ事件、児童ポルノ自撮り被害の低年齢化は止まらず、高校生よりも中学生が上回り、小学生にも広がっています。ツイッター、インスタグラム、チャット型交流サイト、動画アプリなどを使い、下半身の露出や自慰動画をアップする自撮り被害は、無理矢理に画像を送らせるパターンだけではなく、子どもたちが自らインフルエンサー(主にSNSなどにより世間や人々の思考、行動に大きな影響を与える人)に近づきたくてDM(ダイレクトメール)で画像送信してしまうこともあります。また、悩み相談にのる方法をとる子どもに近づきDMでやりとりの後、画面越しに性的画像を要求する被害も起きています。

思春期を迎え性に興味を持ち始めた子どもが、SNSから性的な刺激を得たり、自己顕示欲の高まりにより配信したりしてしまうことは容易に想像できます。情報源のゲーム、ドラマ、アニメは「隠れたカリキュラム」となり、強くたくましい男とセクシーな女のジェンダーバイアスや、画一化したポティイメー、美醜ハラスメント、性暴力などが刷り込まれていきます。しかし、学校や行政機関は、自ら性に近づいていく子どもたちを、家族関係、成育歴、少年非行問題として扱うことが多く、子どもの安心安全のための性教育が、おざなりにされています。

留意しなければならないことは、子どもの性の商品化は、子どもが主体的に売るように見せていますが、「売りたい大人」と「買いたい大人」の間で成立していることです。また、なかなか減らない子どもの性の売買は、被害を受ける子どもたちが、虐待やネグレクト、いじめや不登校により、家庭や学校から孤立し、リアルにSOSを発信できない立場に立たされていることです。

同様に、知的障害、発達障害の少女少年が狙われることもあります。家庭の貧困問題に目を向けるべきでしょう。生活苦で追い詰められた親が虐待や育児放棄に至るケースが増えています。孤立、困窮した子どもに目をつけ、援助者として声をかける買春者や、危険な仕事を斡旋する業者が、子どもたちを「商品化」しているのです。

私たちは、巻き込まれるのは特別な子どもだということおとなの側の認識を変える必要があります。性に近づくことを禁止、規制するだけではなく、性の科学や人権、ジェンダーの平等を基盤にした「包括的な性教育」の推進が必要です。同時に、「子どもを性的な対象としない社会意識」を広めていくことが、エスカレートする子どもの性の商品化を減少させる有効性のある方法なのです。



チャイルドライン支援センター理事
NPO法人さいたまユースサポートネット副代表
金子由美子

MESSAGE

こども支援の輪

● 社会福祉法人
カリヨン子どもセンター理事
坪井節子
(弁護士)

コロナ禍による閉塞状況のなかで、子どもたちにどれほど大きな影響が生じていることが、真只中にいる私たちには測り知れない。学校では、長期間の休校、行事や部活動、宿泊行事の中止。密にならないよう引き離される、友だちとの距離。学業の遅れ。家庭では、リモートワークのために出社しない親たちとの軋轢。収入減、貧困の不安。これらが、子どもたちのこれからの人生に落とす影が、とにかく極少にとどまることを祈るばかりである。

ストレスを抱えて孤立させられている子どもたちが、どこにその苦しみを吐き出せばいいのか。電話越しに、誰かに静かに聞いてもらえるだけで、子どもたちは、孤立から救い出され、どれほどにほっとし、励まされることだろうか。チャイルドラインの活動の意義は、より一層深まっているはずである。

カリヨン子どもセンターのシェルターに避難してくる子どもたちは、特に家庭での重い親子関係のもつれを、背負ってくる。昨年来の事案をみていると、親の支配や干渉、親の期待に束縛され、いつになっても自立を許されない高校生や大学生が、耐え抜いた末に、やっとの思いでSOSを発信してくるケースが増えているように思う。壮絶な環境から逃げることができた、人に助けを求めることができたということは、生きたいと願っている、自分の命は大切なのだと知っているということだと信じる。

彼らの人生に対し、私たちおとなはあまりに無力であり、できることはほんのわずかしかない。それでも、この子どもたちにありのままの自分として、生きていてほしいと願う。ひとりぼっちにだけはしないと覚悟する。そして、彼ら自身が立ちあがり、歩みだすまで傍らで辛抱強く見守る。虐待や不適切養育のために、守られるべき尊厳を傷つけられてきた子どもたちの、人権を回復するための闘いに寄り添うとは、そういうことだと思う。

またそのためには、スタッフ、担当弁護士、児童福祉司、医師、カウンセラーなど、様々な立場のおとなたちが、自分たちの弱さを自覚しつつ、互いに立場や役割を理解しあい、スクラムを組んで連携しつつ、子どもを真ん中に抱きしめ続けることでしか、子どもに寄り添うということではできないと考えている。おとなたちも、ひとりぼっちでは何もできないのだから。

どうか地球全土を覆うこの未曾有の感染禍が、分断や差別を生んで人類絶滅の危機となることなく、連帯と平和を願う人々の勇気と希望によって、乗り越えられていくことを、そして子どもたちの権利が十全に守られる世界がめざされることを、心から願う。

